

case.17

デュアルシステムが  
2年次のコース選択と  
就職率100%に大きく貢献

福岡県立戸畑工業高校

School Data

1939年創立 / 機械・電気系(6コース)、建築系(2コース) / 生徒数471人(男子450人、女子21人) / 進路状況(2012年度実績) 大学6%、専門学校14%、就職80%



2012年2年生のデュアルシステム (綾三井ハイテック)



2012年1年生のデュアルシステム (彩設計工房一級建築士事務所)

デュアルシステム 学年別計画

	1年	2年
4月	ガイダンス 保護者説明会	ガイダンス 保護者説明会
5月	工場見学	工場見学
6月	企業人事担当者による 講演会	企業人事担当者による 講演会
7月	ガイダンス	ガイダンス
8月	デュアルシステム実施	デュアルシステム実施
9月	生徒報告会	生徒報告会
10月	工場見学	
11月		ガイダンス
12月		デュアルシステム実施
1月		
2月	生徒報告会	生徒報告会
3月		

1年生は8月に、2年生は8月と12月に、3年生は12月にデュアルシステムを実施。2月には全学年が企業実習報告会を行う

75年の歴史をもつ同校は、2004年度から3年間、文部科学省の「日本版デュアルシステム」研究指定校となり、地域産業界と連携した教育システムの構築に取り組んだ。指定が終了した07年度より、改めて「戸工版デュアルシステム」をスタート。12年生は全員参加、3年生は希望制(実参加者は10人前後)という独自のシステムだ。スケジュールは左図。実習期間は、1年生1週間(実働5日間)、2年生2週間(同10日間)、3年生2週間(同10日間)。すべて参加すると3年間で5週間となる。

このような長期企業実習を行うのは、専門的な知識や技能を学ぶことはもちろん、社会性やコミュニケーション能力を身につけたり、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の重要性を学ぶため。1・2年生全員参加としているのは、進学者もいずれば働くことになるから。また、3年生の実習先は、就職が内定した企業である。「早く戦力になってほしい」という企業側の意向に加え、生徒には自分の課題をそこで見つけ、残りの学校生活で改善できるといふメリットがある。この仕組みにより早期離職率を低く抑えられているという。

12年度、デュアルシステムの受け入れ企業は80社。うち27社から求人を得て、最終的に24社に38人が内定。企業側窓口の

多くを総務・人事部にしてもらっていることが、実採用に結びついているのではないかと。38人は全就職者の約3割に当たり、学校全体でも就職率100%を達成。これもデュアルシステムの成果だ。

この取り組みについて同窓会、PTAの協力も大きく、12年度キャリア教育優良PTA団体等文部科学大臣表彰を受賞。

実践のヒント

デュアルシステム推進統括 安部久雄先生

教職員とPTAが協力して盛り立てています

なぜ1年次から企業実習を?

1年次に一度経験しておく、2年次に行う際の意識が全然違うからです。1年次は1週間なので、企業のなかで「お客さん」的な存在になってしまいがちですが、それでも仕事を経験し、自ら報告書を書き、企業からも課題を指摘されると、「よ次は頑張るぞ」という気持ちになる。そうして2年次には、生徒も企業も姿勢が変わります。2週間あるので、ものづくりを手伝わせてもらえる機会が増えるし、職場の人たちとの会話もグンと増える。そうなったら生徒は大きく成長します。目指すのはそういうかたちです。

また、本校は「系」を選んで入学し、2年次から「コース」に分かれますが、1年次に企業実習を体験することがコース選択にとても役立つようです。

なぜ成功しているのですか?

毎年多くの学校が視察にみえます。「なぜ戸工版デュアルシステムはうまくいっているのか?」という質問をよく受けます。一つは、教員が一丸となって、これを本校最大の特色にしようとする努力しているからだと思います。毎年報告書が刷り上がると、教員全員で手分けしてお礼と、次年度のお願いに全協力企業にうかがっています。もつとは、熱心なPTA。「この1週間や2週間続かなかつたら、就職は難しいぞ!」と、どの保護者も毎日お話をかけてくれる。非常に心強いです。そして何より、本校が北九州という工業の発展した地域にあるから。新日鉄やTOTOといった大企業があり、関連企業のすそ野は広く、中小企業も非常に多い。デュアルシステム運営委員会というものが、校長をはじめとする教員のほか、企業5社やPTAにも入っていたっています。地域が本校を支えてくれていると実感しています。

インターンシップの効果的な実践

case.18

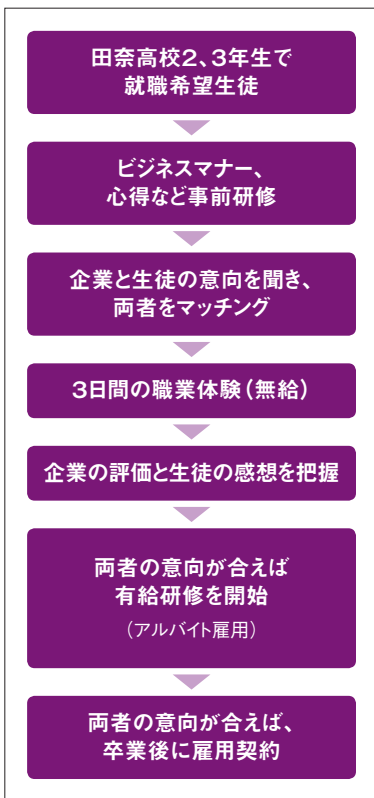
アルバイト+インターンシップ  
 Ⅱ バイターンで適性を知り  
 進路選択と就職に生かす

神奈川県立 田奈高校



バイターンを体験する高校生。内定に結びつくケースが出始めている

バイターンの流れ



「職業体験」まではインターンシップとして高校が1単位を認定。それ以降は企業、本人、保護者による雇用関係となっていく

2009年度より神奈川県のカリエイティブスクールに指定されている同校は、基礎学力の定着やキャリア教育の推進に取り組んでいる。1年次には職業インタビューや職場見学体験、労働法講座など、2年次にはインターンシップ、専門学校実習などと体系的なキャリア教育を実践。生徒の「自己効用感」や「大人への信頼感」の醸成に大いに役立っているという。

それらに加え、「バイターン」が行われている。バイターンとは、アルバイトとインターンシップを合わせた言葉で、就職希望生徒のための有給職業体験のこと。まずは生徒が3日間、一つの企業で職業体験を実施。生徒の感想と企業の評価を聞き、意向が合えばそこから有給研修としてアルバイト雇用に入る。アルバイト雇用期間は企業、この事業を担当するNPO法人、高校が連絡を取り合い、共に生徒を見守り、生徒の課題に対して共に協力して課題解決にあたる。そして企業が適性を認めた生徒は正規雇用へと進む、新しい職業教育プログラムである。

「有給」にする一つの理由は、生徒の生活の保障。普段からアルバイトで生活を支えている生徒が多いためだ。もう一つは、有給により生徒も企業も真剣みが増すためである。この仕組みは神奈川県「新しい公共支援事業」の支援金により12年1月からスタート。これまでの登録企業は約40社あり、うち実施企業は13社。有給研修への参加高校生は17人で、うち2人が企業に採用された。

School Data

1978年創立 / 普通科 / 生徒数667人(男子248人、女子419人)  
 / 進路状況(2012年度実績) 大学16.3%、短大3.4%、専門学校23.5%、就職38.3%、その他18.7%

実践のヒント  
 キャリア支援グループ  
 金沢信之先生

生徒も企業もメリットがある  
 すばらしい仕組みです

Q バイターンの魅力は何ですか？

例えば、アパレルにあこがれていた生徒がバイターンにより有名店で職業体験できることになった。喜び勇んで行ったものの3日間で向いていないと悟り、すぐさま他の業界へと方向転換した例があります。これまで、そういう生徒は難しかったのです。就職時期になっても好きなアパレル以外は受けず、「夢」だけ抱えてずるずるとフリーターになっていくパターンが多かったです。ところがこの仕組みで「自分」と「社

Q 企業のメリットは何ですか？

企業も若者の採用には苦労しています。募集すれば数多くの応募があるが、人選はとても難しく、採用してもすぐに辞める人が多い。その点、バイターンは若い人をじっくり見て採用できるのでとてもいいと思います。同時に社会貢献という意味合いも込めて登録してくださる企業があります。しかし、まだまだ少なく、企業開拓は私たちの大きな課題です。

求人票を使った就職活動が高卒就職の基本ですが、そこにうまく入っていない生徒の選択肢としてバイターンは非常に有効だと思います。「日本版「デュアルシステム」といえるくらいまでブラッシュアップさせ、全国に広めていきたいです。

また、採用面接に強くない生徒もいます。通常の採用試験ならば面接1回で落とされたり、不合格の理由がわからずまじであることが多い。しかし、バイターンは企業と高校とが連絡を取り合います。企業から生徒の課題を伝えてもらい、それをもとに本校のキャリアカウンセラーと生徒が振り返りを行い、どう変わっていくべきかを決めて研修の場に戻る。有給研修は基本1カ月ですが、企業と交渉して2カ月、3カ月と伸ばしてもらい、そのなかで教育していただき、その結果生徒も成長して内定をいただくというケースが増えています。

case.19

1、2年次にインターンシップ。  
地元での職場体験を通じて  
「地域」について学ぶ

埼玉県立越生高校

おこせ

School Data

1972年創立／普通科、美術科／生徒数428人(男子190人、女子238人)／進路状況(2012年度実績)大学15.8%、短大3.5%、専門学校29.8%、就職24.6%、その他26.3%

同校は2002年度より、総合的な学習の時間の取り組みとして、「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」を目標とするインターンシップを導入した。「地域を学ぶ」とは、自分の住む地域でどんな社会生活が営まれているのかを理解すること、「地域で学ぶ」とは、自分が地域の一員であることを自覚し、体験を通じて言葉遣いやマナーなどの社会性を身につけることである。これを生徒の地元の小学校、幼稚園、図書館、福祉施設、企業などで行う。現在に至るまでさまざまな試行錯誤があったが、それは次のような経過である。



幼稚園(上)と消防署(下)で行われたインターンシップ。「地域」について学ぶことを基本としており、生徒の地元の公的機関で行われるケースが多い

インターンシップの年間予定

5月	生徒の就労体験施設の希望調査
6月	生徒の就労体験施設の調整・決定
9月	生徒と就労体験施設との電話連絡
10月	生徒と就労体験施設との事前打ち合せ
11月	頭髪服装指導・マナー指導 就労体験実施
12月	報告書と礼状の作成

1～2年生合同の取り組みとして、毎年、2学年同時に計画が進んでいる

02年度…1～2年生が1日のみ試行。  
03年度…1～3年生が3日間実施。1～2年生は公共施設や企業、3年生は大学や専門学校で模擬授業など。3年生の進路活動に有効なように6月に実施。  
04年度…6月実施は難しく、11月の3日間に変更。3年生は別プログラムに。  
05年度…1～2年生が11月に3日間実施。  
06年度…美術科の生徒の多くが進学希望のため、インターンシップより大学・専門学校の模擬授業体験のほうが有効と判断。インターンシップは普通科1～2年生

に限定し11月に3日間実施することに。以降この形式で現在まで続いている。

年間予定は、5月の希望調査から事前指導、実施、事後指導まで図のような流れで行われる。これらはすべて1～2年生が同時に行い、取り組みの目的や体験施設の選び方について学年ごとに説明を変えることはせず、生徒が自由に主体性をもって体験できるようにしている。そのなかで1年次の経験を2年次に生かすような生徒も見受けられるという。

担当するのは1～2学年の担任、副担任の計20人の教員。体験施設は70～80カ所。市区町村別に生徒を数グループに分け、施設も分け、そこに教員が数人ずつ配置されるかたちで行われ、実施期間は教員が施設を巡回していく。

実践のヒント

総合的な学習の時間委員会委員長  
青木孝夫先生

伝統ある取り組みですが  
実施は容易ではありません

インターンシップで生徒の  
進路意識は変わりますか？

変化する生徒はいますが、それについてはっきりと確かめてはいません。本校の職場体験はそもそも進学や就職に結びつけるというよりも、地域について学ぶことを目的としているからです。普段何気なく訪れる図書館のバックヤードではこんな人たちが、こんな仕事をしているのかと驚い

たり、働くということを肌身に感じてもらえればと思っています。

運営上の課題はありますか？

10年以上続く歴史のある取り組みなので、やり方がほぼ決まっております。ルールに乗って進めているような感覚の教員もいるかもしれませんが。そのためか、付き合ひの長い施設から、生徒の事前指導を充実させてほしいといった要望を受けることもありま。教員全体が慣れることなく、気持ちを引き締めていかなければならないと考えています。このところ生徒の通学区域が広がり、それに合わせて体験施設を開拓する必要に迫られています。全体的に受け入れ企業が減っているように感じますが、新たに開拓していくことは困難ですが、先生方と頑張っていきたいです。

今後変えていきたいところは？

変えていくというよりも、現状を維持するのも大変というのが正直なところです。経験した教員が異動してしまったりすると、本校のような小規模校には影響が大きく、「もっとこうしていきたい」という気持ちや企画があっても、新しい人々が入って運営体制が「リセット」されてしまったりします。それでもレベルを落とさずに進めていかなければなりません。お手伝いいただける外部機関などがあれば検討したいですが、この地方では選択肢が限られているように思います。

インターンシップの効果的な実践

case.20

インターンシップなどで  
身についたことを表現する  
ドラマプレゼンテーション

神田外語大学

同大学のキャリア教育の立ち上がりは早く、90年代後半からインターンシップなどを取り入れ、当時から単位認定している。現在は「キャリアデザイン」「キャリア開発」「ビジネスインターンシップ」の3講座を開講。グループディスカッション主体の授業を展開している。

ビジネスインターンシップは、主に3年生を対象とした授業。夏休み期間中のインターンシップがメインとなるが、その前後も充実している。前期は、企業の仕組みやマーケティングを学ぶ授業のほか、学生が普段働くアルバイト先で「ミニリサーチ」を実施。学生がコンサルティングの目線で現場の良



ドラマプレゼンテーションで迫真の演技をする学生たち。表現力やチームワークなどが養われる

神田外語大学のキャリア教育

キャリアデザイン

社会人として必要な  
基礎能力を学ぶ

自分がやりたい仕事は何か、どのように社会とかがわって生きていくのか、大学で何を学ぶべきかについて考え、キャリアのデザイン（設計）ができるようになることを目指す。

キャリア開発

経済的な視点から  
業界や企業を見る

外国語を学ぶなかで疎くなりがちな、経済的な視点を養いながら企業や業界の見方を知るための授業。商業簿記、工業英語、CSR、ホスピタリティなど、さまざまなテーマが展開されている。

ビジネスインターンシップ

実社会を体験して  
自分の視野を広げる

夏休みの企業インターンシップを通して実際に働くイメージをつかむのと同時に、社会人に必要な知識やスキルも学ぶ。また、企業人や専門家も加わり、「企業とは何か、就職に対する不安」などをグループでディスカッションする。

神田外語大学のキャリア教育は、全体として社会人基礎力の養成を目的としている。そのために数多くの教職員がきめ細かいサポートを行っている

School Data

1987年創立 / 外国語学部(英米語学科、アジア言語学科、イペロアメリカ言語学科、国際コミュニケーション学科) / 学生数3759人(男子951人、女子2808人)

決算として「ドラマプレゼンテーション」を行う。インターンシップなどを通じ、この1年で「何を学んだのか」をドラマ仕立てで伝えることが課題だ。

1グループ約15人ごとにシナリオを考え、配役を決め、しっかりと演技の練習をして1月の本番に臨む。窮地に陥った店を再生させるドラマや、桃太郎になぞらえてチームワークの重要性を示す物語など多彩な芝居が繰り広げられる。静まりかえる講堂でマイクを使わずに地声で、全身を使って学長やゲストの前で力いっぱい表現する。すごく緊張する分、度胸がついて就活前にはうってつけだという。

実践のヒント

キャリア教育センター長  
北原賢三教授

学んでほしいのは  
人間関係とコミュニケーション

なぜドラマ仕立てなのですか？

4年前までは、ビジネスアイデアを企業

に対してプレゼンテーションしていました。しかし、実際にプレゼンするのは2~3人。せっかくのグループ学習の機会なので、やはり「全員参加」が望ましいと思い、3年前から私の発案でドラマプレゼンテーションにしました。これで学んでほしいのは「人間関係」。15人もいると、積極的に仕事をする人もいれば非協力的な人もいます。現実の職場もだいたいそんなものではないでしょうか。グループ全体が同じ方向に進むのがいかに難しいかを、社会人になる前にあらかじめ学んでおく必要があると思います。

この授業で学生は変化しますか？

この授業は何をするにもグループディスカッションを中心にしますが、多くの学生が当初は思うように発言できないようです。しかし徐々に慣れ、「今日はひとこと言えた」といった喜びの声が授業レポートから見えてくる。そうしてコミュニケーション力が磨かれていきます。最後に総仕上げとしてドラマも行い、1年間で「自分を表現できるようになった」と感じる学生が多いようです。もともと優秀な学生が受講するケースが多いこともありますが、受講者の就職内定率はきわめて高いです。

今後の課題は？

今後はこの授業の意義や目的を当初からきちんと学生に説明するようにしたいと考えています。そうすればもっとスムーズに取り組める学生が増えるでしょう。